

令和6年度第1回献血推進調査会報告用

「献血推進2025」の献血率目標値の妥当性と 2028年の献血率目標値の案について

田中 純子

医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業

R3-5: 新たなアプローチ方法による献血推進方策と血液製剤の需要予測に資する研究

R6: 若年層に対する献血推進方策と血液製剤の需要予測に資する研究

研究代表者

広島大学 理事・副学長

疫学&データ解析新領域プロジェクト研究センター センター長



背景

- ◆ 血液製剤の安定供給のためには、その原料である献血血液を将来に亘り安定的に確保する必要があるため、厚生労働省では、基本方針に基づき、毎年度献血推進計画を定めているほか、複数年の期間を対象とした献血推進に係る中期目標を設定している。
- ◆ これまで中期目標として平成17年度から「献血構造改革」、平成22年度からの「献血推進2014」、平成27年度からの「献血推進2020」、令和3年度からの「献血推進2025」が設定され、献血者確保の取り組みが行われた。
- ◆ 「献血推進2025」の設定にあたっては、日本赤十字社が令和元年10月の血液需要将来推計シミュレーションをもとに新たに行った需要推計に基づく必要献血者シミュレーション結果に加え、厚生労働科学研究「新たなアプローチ方法による献血推進方策と血液製剤の需要予測に資する研究（田中純子班）」の研究結果及び献血推進調査会の委員の意見を踏まえ設定された。この中期目標設定にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響を十分に考慮できていないため、中間年である令和5年度を目途に達成目標のそれぞれの項目の実績値を確認し、必要に応じて見直していくこととされていた。
- ◆ 今回、コロナ禍の時期を含むNDB/血液製剤/献血者数データを用いて、再解析を行い、献血推進2025目標値の検証および献血推進2028の目標値案を提示する

○仲島血液対策課長補佐 ～略～

もう1つ、前回の推進調査会で説明をさせていただいた「**献血推進に係る新たな中期目標「献血推進2025」**」の**目標値の見直し**に関する件です。

まず、新型コロナウイルス感染症の及ぼす影響が見通せなかったということから、「**中間年である令和5年度を目途に、達成目標の実績値を確認し、必要に応じて見直すこと**」とされました。本年の第1回の献血推進調査会で、**策定時にシミュレーションを行っていただいた日本赤十字社と厚生労働科学研究で再度確認をしていただき、今後の調査会で見直しの必要性に関して御議論いただく**ということを案内していたかと思えます。

献血に関しては、基本方針や献血推進計画本文もあることから、「**献血推進2025**」の**目標年度を令和10年度(2028年度)まで延長**し、役割分担も含めて検討し、次の中期目標で法律、基本方針、計画・目標が一連のものとなるよう整理したいと考えています。**当初の目標値の妥当性や2028年まで延長した場合の目標値については、厚生労働科学研究で検証に当たっていただいておりますので、来年度の第1回献血推進調査会において御審議いただくことを考えております。**前回の調査会で、2月、3月に臨時でということをお話させてもらったのですが、先のほうまで見通して、来年度の第1回、7月頃に予定している調査会で御議論いただけたらということで、その旨、御報告させていただきたいと思っております。以上です。

～略～

令和6年度第1回献血推進調査会（7月）では下記について報告

- ◆「**献血推進2025**」の**目標値の妥当性**
- ◆**令和10年度(2028年度)まで延長した場合の目標値**

令和2年度第3回献血推進調査会（令和3年1月28日）

需要推計について

田中班より報告

血液製剤の需要に必要な献血本数【令和元年以降/2019以後】 解析結果のまとめ

需要推計結果	赤血球製剤+全血製剤 (単位)	血漿製剤 (単位)	血小板製剤 (単位)
2020年	6,501,490	2,246,145	9,224,208
2022年	6,445,074	2,220,999	9,189,842
2025年	6,268,815	2,152,035	9,005,576
2027年	6,103,783	2,090,059	8,812,298
2030年	5,838,567	1,991,633	8,492,632

必要献血者数 ※	全血献血		血漿献血		血小板献血 (人)	合計(人)
	200ml献血 (人)	400ml献血 (人)	製品用 (人)	原料用 (人)		
2020年 Low	134,704	3,232,897	205,723	492,085	865,280	4,930,689
High				772,131		
2022年 Low	133,535	3,204,844	203,420	517,677	862,056	4,921,532
High				799,688		
2025年 Low	129,883	3,117,198	197,104	485,255	844,771	4,774,211
High				760,371		
2027年	126,464	3,035,135	191,428	未算出	826,641	未算出
2030年	120,969	2,903,255	182,413	未算出	796,654	未算出

※ NDB解析に基づく免疫グロブリン製剤使用本数が、血液事業報告に基づく免疫グロブリン製剤供給量と比べて10~15%低い（病院でのストック分、公費負担分など）ことから、NDB解析に基づく需要推計値をLow予測、その差分を加味して、原料血漿の需要を1.14倍（2018年実績）にして算出したものをHigh予測とした。

日赤より報告

需要推計及び献血者シミュレーション

2018年度、都道府県ごとの地域特性を踏まえ、医療法に基づく医療計画（地域医療構想）による医療ニーズの変化、人口推移等を考慮した2022年度・2027年度に加え、**新たな中期目標「献血推進2025」である2025年度の需要推計の検証**を実施した。

2019年度事業計画をベースとし、需要推計に基づく必要献血者数をブロックセンターごとに算出

需要推計結果	赤血球製剤(単位)	血漿製剤(L)	血小板製剤(単位)
2018年度(参考)	6,350,246	261,600	8,808,065
2022年度	6,458,242	264,552	9,160,415
2025年度	6,368,953	259,704	9,010,801
2027年度	6,309,427	256,473	8,911,059

※2025年度は、2022年度から2027年度にかけて、各製剤が一定の割合で増減すると仮定し算出した。(人)

必要献血者数	全血献血		血漿献血		血小板献血	合計	
	200mL献血	400mL献血	製品用	原料用			
2018年度(参考)	141,941	3,230,411	757,658		605,934	4,735,944	
ポジティブ 予測	2022年度	101,628	3,318,238	197,336	895,827	623,307	5,136,336
	2025年度	100,325	3,272,303	193,700	915,549	613,065	5,094,942
	2027年度	99,455	3,241,678	191,278	928,699	606,234	5,067,344
ネガティブ 予測	2022年度	101,628	3,318,238	197,336	742,771	623,307	4,983,280
	2025年度	100,325	3,272,303	193,700	666,829	613,065	4,846,222
	2027年度	99,455	3,241,678	191,278	641,715	606,234	4,780,360

※原料血漿確保量 ポジティブ予測：2022年度～2027年度 124万L ネガティブ予測：2022年度 116万L、2025年度 111万L 2027年度 109万L 8

2025年の血液製剤の需要に必要な献血者数

◆ 田中班推計では、

477～505万人

◆ 日赤推計では、

485～509万人

田中班より報告

今回算出した2025年献血率目標値と
献血推進2020の献血率目標値との比較

2025年の必要献血者数と推計献血者数との差分（約33~65万人）を確保するための献血率目標値を算出した。「献血推進2020」の献血率目標値と比較すると、今回は低い値となったが、これは「献血推進2020」推計（H26）の必要献血者数の推計値が537万人であったのに対し、今回の2025年の推計値が477~505万人と低いためであったと考えられる。

献血推進2020達成目標

2. 平成32（2020）年度までの達成目標

項目	目標	厚労省献血推進調査会による2020年目標値	
		H25年度実績値	H32年度目標値
若年層の献血者数の増加	10代(注1)の献血率を増加させる。	6.3%	7.0%
	20代の献血率を増加させる。	7.2%	8.1%
	30代の献血率を増加させる。	6.7%	7.6%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を増加させる。	50,712社	60,000社
複数回献血の増加	複数回献血者(年間)を増加させる。	996,684人	1,200,000人
献血の周知度の上昇	献血セミナーの実施回数(年間)を増加させる。	1,128回	1,600回

(注1) 10代とは献血可能年齢である16~19歳を指す。

厚労省献血推進調査会による2020年目標値

田中班による2025年目標値

16-69歳で捕捉する場合	16-39歳で捕捉する場合
5.7~6.2%	6.5~7.5%
6.0~6.7%	6.9~8.1%
5.3~6.0%	6.1~7.3%

参考：必要献血者数

H26推計の2020年必要献血者数は**537万人**

田中班推計の2025年必要献血者数は**477-505万人**

日赤より報告

今後の検討事項

国（厚生労働省）において、献血推進にかかる中期目標「献血推進2020」を定め、若年層の献血者の増加に努めている。献血者シミュレーションについては、以下の新たな目標値「献血推進2025」を定める参考値とする。

●献血推進に係る新たな中期目標～献血推進2020

項目	目標	H32年度目標値
若年層の献血者数の増加	10代(注)の献血率を増加させる。	7.0%
	20代の献血率を増加させる。	8.1%
	30代の献血率を増加させる。	7.6%

(注) 10代は献血可能年齢である16~19歳を指す

※ 平成30年度献血事業報告より

2025年度目標値(案)	2025年度目標値(案)
6.6%	6.4%
6.8%	6.5%
6.6%	6.3%

※ ポジティブ予測値

※ ネガティブ予測値

「献血推進に係る新たな中期目標「献血推進2025」」の目標値

2. 達成目標について

項目	目標の定義	令和7年度目標値	令和元年度実績値
若年層の献血者数の増加	若年層（16才~39才）の人口に対する献血者数の割合（献血率）	6.7%	(参考) 10代 : 5.5% 20代 : 5.7% 30代 : 5.5%
安定的な献血の確保	献血推進活動に協力いただける企業・団体の数	70,000社	59,280社
複数回献血の推進	年に2回以上献血された方(複数回献血者)の人数	1,200,000人	983,351人

目標値は日赤のポジティブ予測の値

解析方法の概要

【需要】血液製剤の需要と必要献血者数の予測

1) 輸血用血液製剤の需要予測

日赤：血液事業の現状（2010-2020）の血液製剤「供給」実績を基に、輸血用血液製剤の需要予測を行う。

また、需要予測において患者年齢を考慮するために、東京都輸血状況調査（2010-2020）の調査結果を合わせて用いる。

2) 原料血漿量の需要予測

NDB：国内製免疫グロブリン製剤の処方実績（2010-2021）を基に、免疫グロブリン製剤の需要予測と、そのために必要な原料血漿量を算出する。

3) 必要献血者数の算出

①輸血用血液製剤の需要予測結果から、**全血献血**、**血小板献血**、**血漿献血（製剤用）**の**必要献血者数**に換算する。

また、② 必要原料血漿量から全血献血転用分を除いた、**血漿献血（原料血漿用）**の**必要献血者数**を算出する。

【供給】献血者数の予測

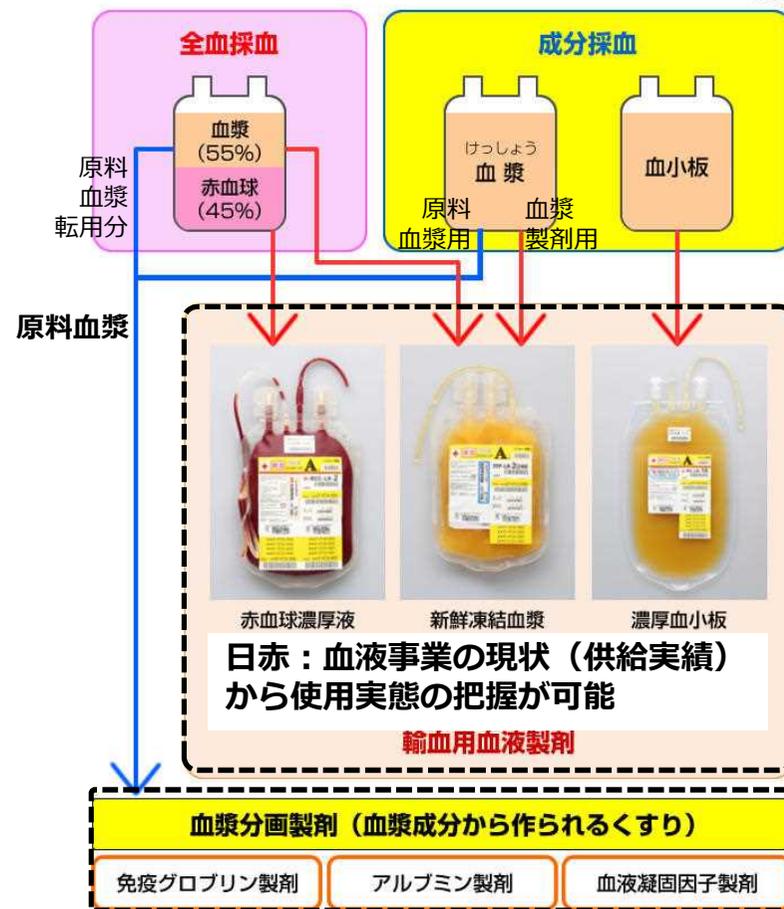
全献血者の資料（2006-2020年、毎年約500万人）を基に、性・年齢別献血率を算出し、年齢・時代・コホート(APC)モデルに当てはめて、将来の予測献血者数と**2025年・2028年の予測献血率（年齢階級別）**を算出する

【目標値】2025年・2028年献血率目標値の算出

需要と供給の差から不足献血者数を算出し、2025年・2028年の予測献血率（年齢階級別）に不足分を上乗せし、献血率目標値を算出する

輸血に使う血液の種類 ～輸血した血液からは何がつくれるの？～

こんな風になるんだ～

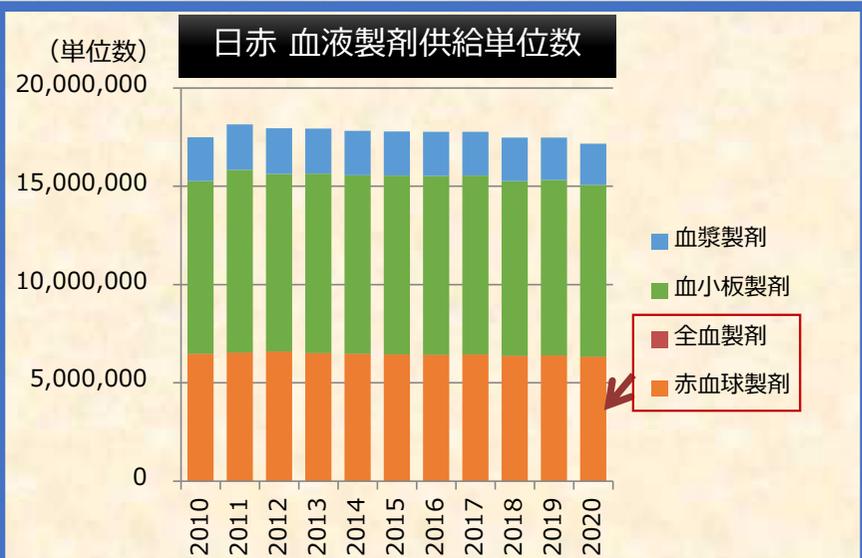


NDB：免疫グロブリン製剤の処方実績から使用実態の把握が可能

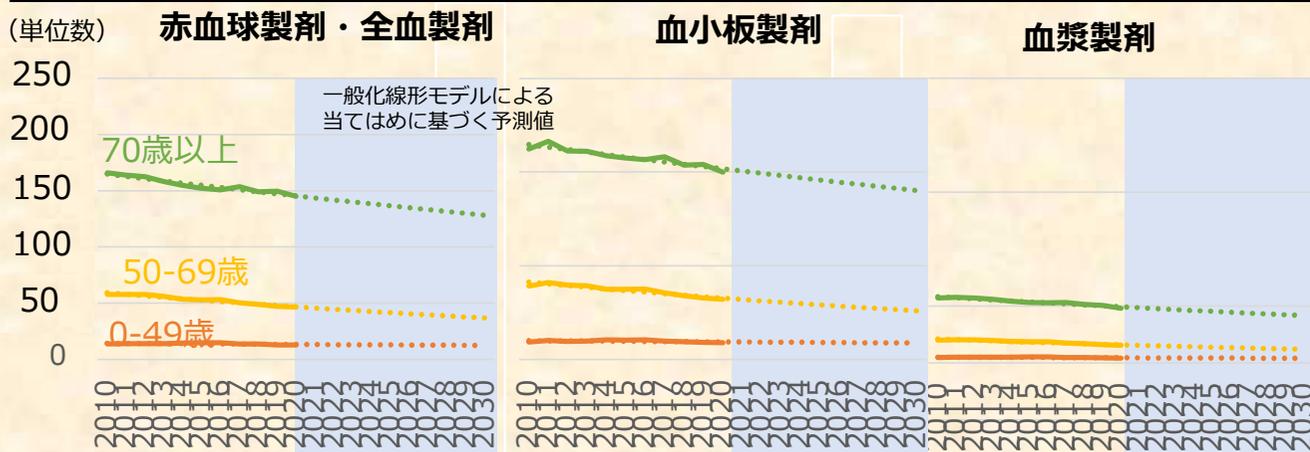
【需要】血液製剤の需要と必要献血者数の予測

1) 輸血用血液製剤の需要予測

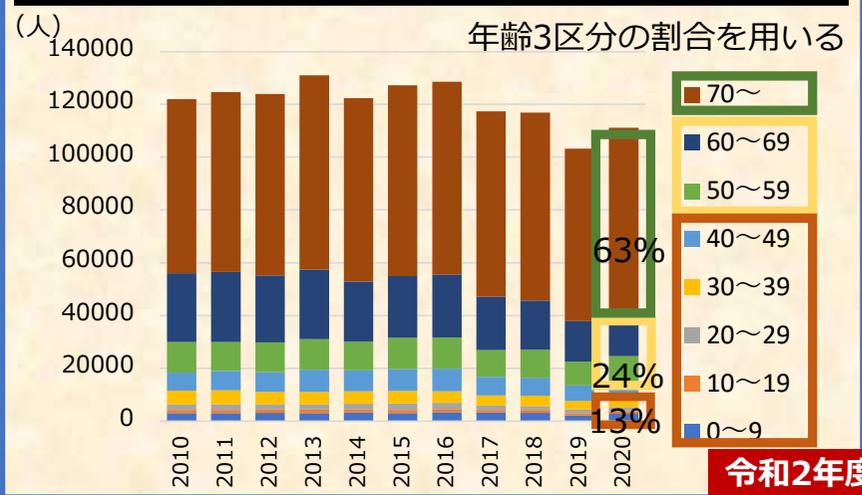
献血推進方策と血液製剤の需要予測に資する研究班（代表：田中 純子）



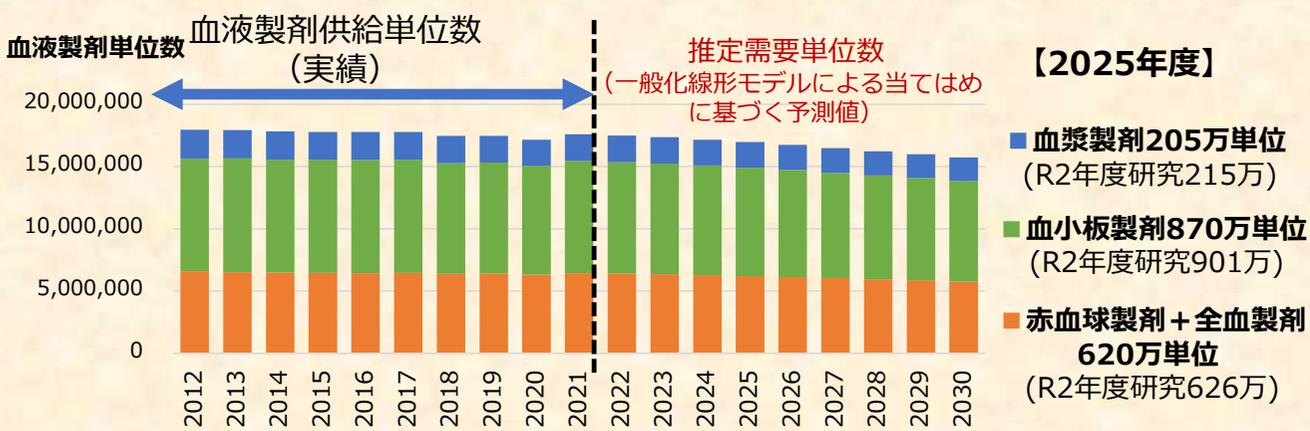
① 人口1,000人当たりの血液製剤供給単位数 (2010-20) と ② 推定血液製剤需要単位数 (2022-30)



「東京都輸血状況調査結果」年齢別血液製剤使用状況



③ 推定血液製剤需要単位数 (2021-30)



令和2年度研究（献血推進2025）と比較して、血液製剤（血漿分画以外）需要推計値は低値であった

【需要】血液製剤の需要と必要献血者数の予測

2) 原料血漿量の需要予測

NDB (National Database)

NDB (National Database)

医療保険のレセプトデータベース：国民の医療動向を全数に近い割合で評価可能

- 【NDB申請～提供】 : 2022年4月に厚生労働省へ利用申請 6月審査にて利用承諾 ⇒ 2023年7月末データ提供
- 【NDBレセプト抽出期間】 : 2012年4月～2022年3月
- 【NDB抽出条件】 : 血液製剤に関する医薬品コード (457件) を1度でも有したことがある患者 (人) の全レセプト

提供NDBデータ件数 2012年4月～2022年3月

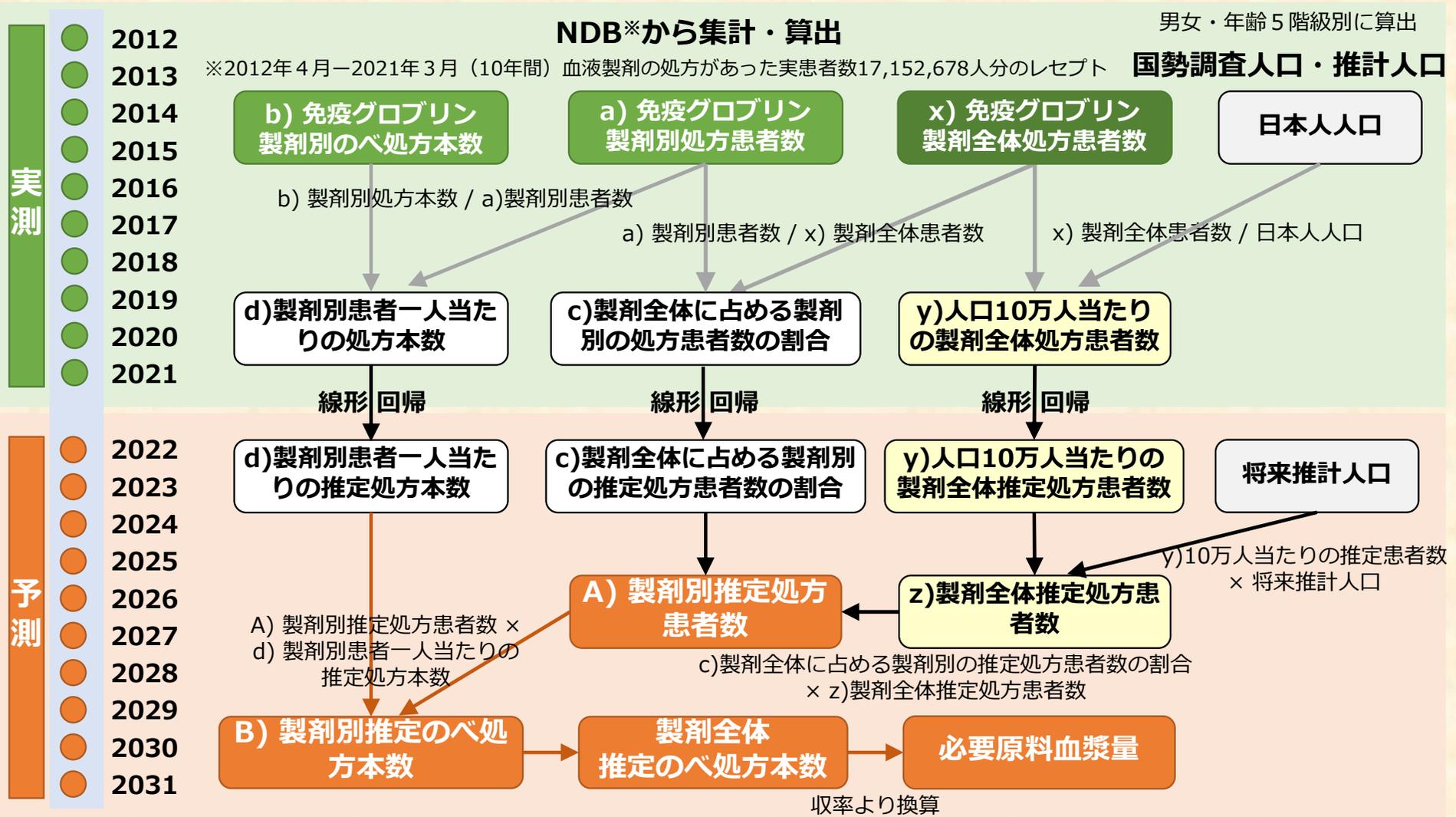
実患者数 (ID1算出※) 17,152,678 人 約1,715万人 ※ ID1 : 保険者番号+被保険者番号+生年月日+性別 (匿名化ハッシュ値)
→ **うち、免疫グロブリン製剤処方あり (医薬品コード55件) 1,211,589人 約121万人**

レセプト	ファイル数	レセプト数	総データ件数	
医科レセプト	1,919 個	974,512,485	30,864,415,807 件	308.6億
DPCレセプト	2,032 個	51,330,641	11,518,982,099 件	115.2億
調剤レセプト	1,304 個	617,786,882	11,075,386,157 件	110.8億
総データ量	5,255 個	1,643,630,008	53,458,784,063 件	534.6億

【需要】血液製剤の需要と必要献血者数の予測

2) 原料血漿量の需要予測

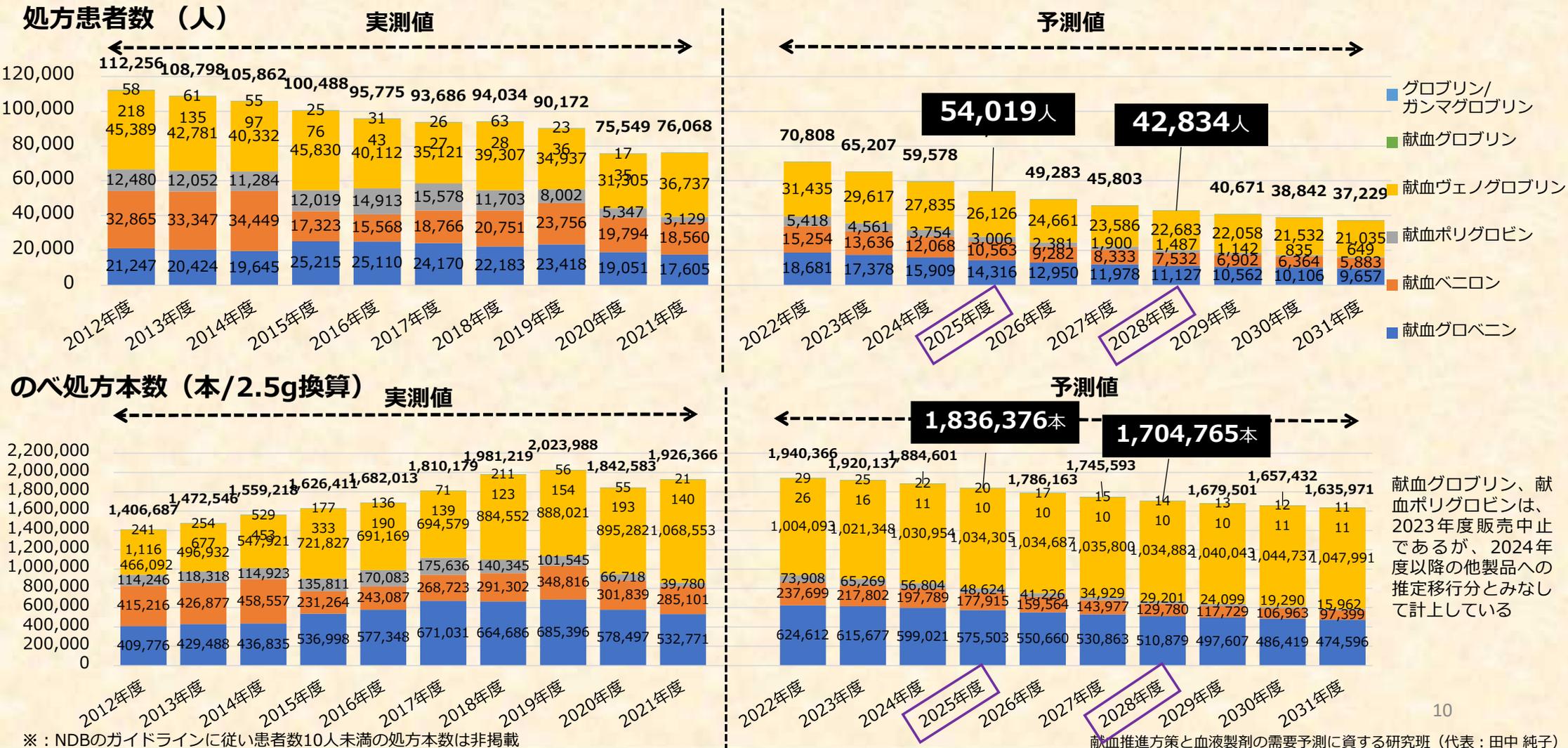
方法：国内製免疫グロブリン製剤の処方本数と必要原料血漿量の将来予測



【需要】血液製剤の需要と必要献血者数の予測

2) 原料血漿量の需要予測

国内製免疫グロブリン製剤の処方患者数とのべ処方本数・NDB実測値と将来予測



※：NDBのガイドラインに従い患者数10人未満の処方本数は非掲載

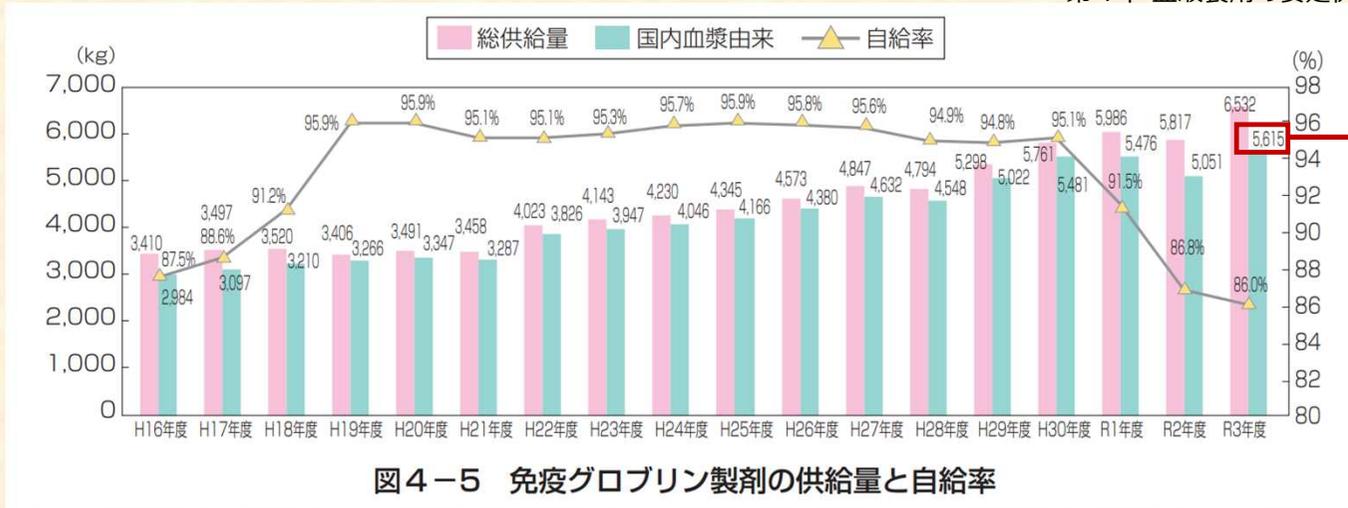
【需要】血液製剤の需要と必要献血者数の予測

2) 原料血漿量の需要予測

令和4年度血液事業報告 国内製免疫グロブリン製剤供給量とNDB算出値の比較・予測範囲の設定

令和4年度血液事業報告に記載の免疫グロブリン製剤供給量

※令和4年度版血液事業報告：001070474.pdf (mhlw.go.jp)
第4章 血液製剤の安定供給について 血漿分画製剤の供給状況



国内血漿由来の免疫グロブリン製剤の供給量kgを2.5g/本に換算
 $5,615,000 \div 2.5g = 2,246,000$ 本

令和4年度血液事業報告の免疫グロブリン製剤供給量（国内血漿由来）とNDB算出値の比較

免疫グロブリン製剤	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
血液事業報告より算出	供給量 (国内)	本/2.5g	1,618,400	1,666,400	1,752,000	1,852,800	1,819,200	2,008,800	2,192,400	2,190,400	2,020,400	2,246,000
NDB算出値	処方量 (捕捉率)	本/2.5g	1,406,687 (86.9%)	1,472,546 (88.4%)	1,559,218 (89.0%)	1,626,411 (87.8%)	1,682,013 (92.5%)	1,810,179 (90.1%)	1,981,219 (90.4%)	2,023,988 (92.4%)	1,842,583 (91.2%)	1,926,366 (85.8%) 1.17倍

NDB算出値は血液事業報告の85.8~92.5%にあたる NDB算出値：患者処方量 ≠ 血液事業報告：販売業者や卸への供給、廃棄分を含む供給量

●原料血漿必要量算出 予測範囲

国内製剤予測 (NDB)：NDB算出値

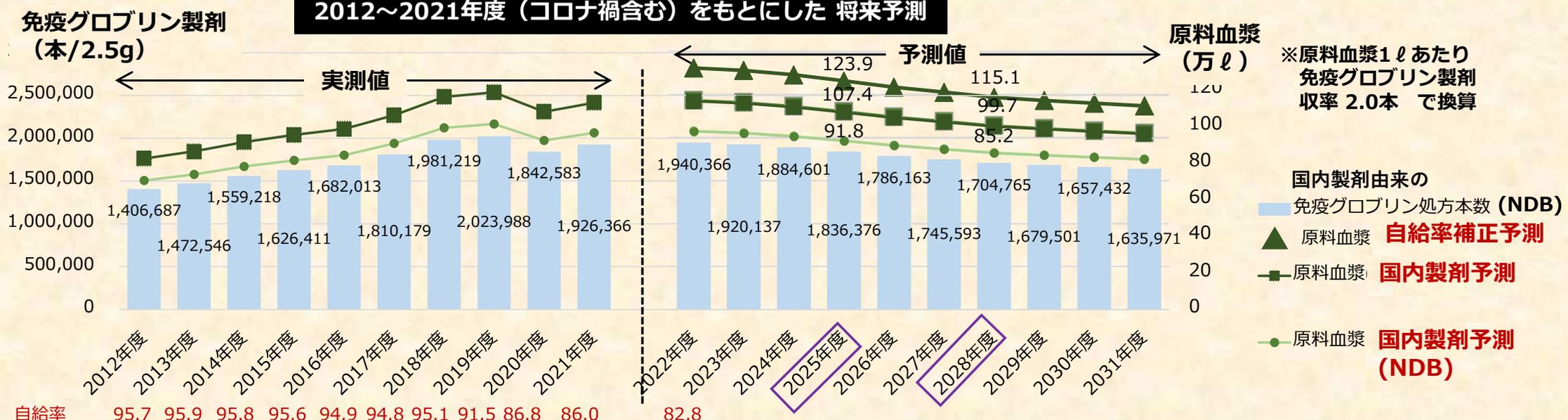
国内製剤予測：血液事業報告の供給量を換算 ※NDB算出値の1.17倍 (2021年度の差分を適用)

自給率補正予測：国内製剤予測を期待自給率 (95.3%：2009-2018年平均)により補正

【需要】血液製剤の需要と必要献血者数の予測

2) 原料血漿量の需要予測

2012～2021年度（コロナ禍含む）をもとにした 将来予測



将来予測		収率	単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度
免疫グロブリン製剤 (NBD)		-	本/2.5g	1,940,366	1,920,137	1,884,601	1,836,376	1,786,163	1,745,593	1,704,765	1,679,501	1,657,432	1,635,971
原料血漿	国内製剤予測 (NDB)	2.0本 / ℓ	万ℓ	97.0	96.0	94.2	91.8	89.3	87.3	85.2	84.0	82.9	81.8
	国内製剤予測		下段: ℓ	970,183	960,069	942,300	918,188	893,082	872,796	852,383	839,751	828,716	817,986
	自給率補正予測		万ℓ	113.5	112.3	110.2	107.4	104.5	102.1	99.7	98.3	97.0	95.7
				131.0	129.6	127.2	123.9	120.6	117.8	115.1	113.4	111.9	110.4

NDB予測の 1.17倍

(期待自給率95.3%)
2009-2018の平均

【需要】血液製剤の需要と必要献血者数の予測

3) 必要献血者数の算出

血液製剤の需要に必要な献血本数（献血者数）

需要 推計 結果	全血献血		成分献血				合計（人）			
	200ML 献血 （人）	400ML 献血 （人）	血小板献血 （人）	血漿献血（人）						
				血漿製剤 製品用	原料血漿用 国内製剤予測～自給率補正予測					
2021	123,449	3,201,539	858,460	192,065	855,158	～	984,258	5,230,671	～	5,359,771
2022	122,699	3,182,085	853,696	190,097	881,129	～	1,014,150	5,229,706	～	5,362,727
2023	121,712	3,156,484	847,277	187,777	868,252	～	999,329	5,181,502	～	5,312,579
2024	120,457	3,123,946	838,988	185,062	839,958	～	966,763	5,108,411	～	5,235,216
2025	119,084	3,088,331	829,862	182,185	797,636	～	918,052	5,017,098	～	5,137,514
2026	117,530	3,048,034	819,469	179,054	755,080	～	869,072	4,919,167	～	5,033,159
2027	115,769	3,002,376	807,622	175,632	726,780	～	836,499	4,828,179	～	4,937,898
2028	114,027	2,957,194	795,890	172,263	697,950	～	803,317	4,737,324	～	4,842,691

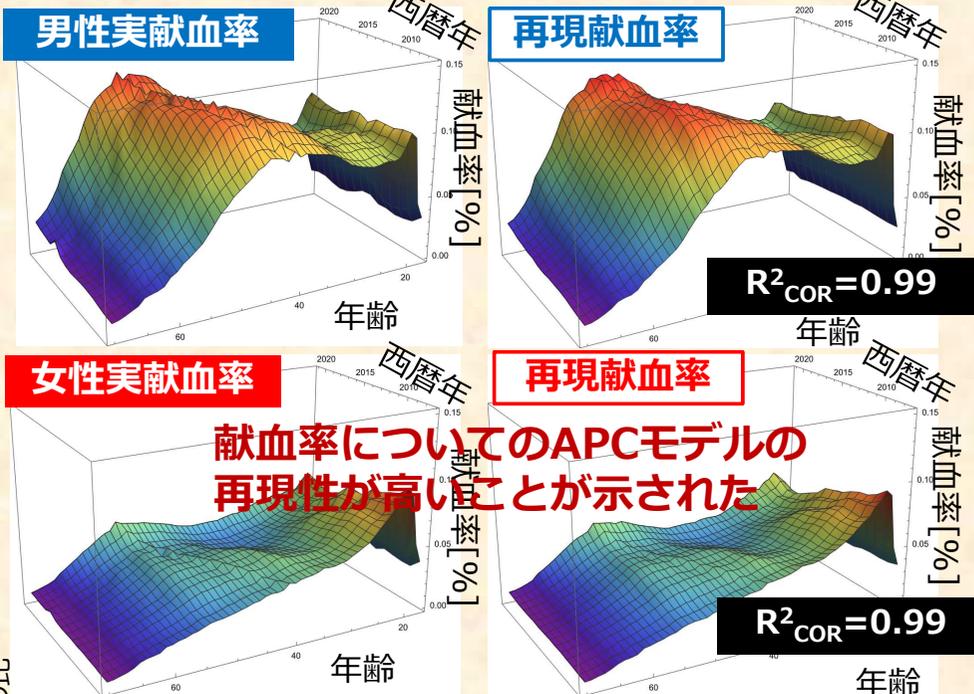
血液製剤需要予測（単位数）を「血液事業の現状」の献血状況と供給状況をもとに、献血者数に換算

免疫グロブリン需要で算出した「原料血漿需要」から、全血献血・血小板献血からの原料血漿転用分を引いた需要量を、献血者数に換算（血漿献血1回=原料血漿0.48L）

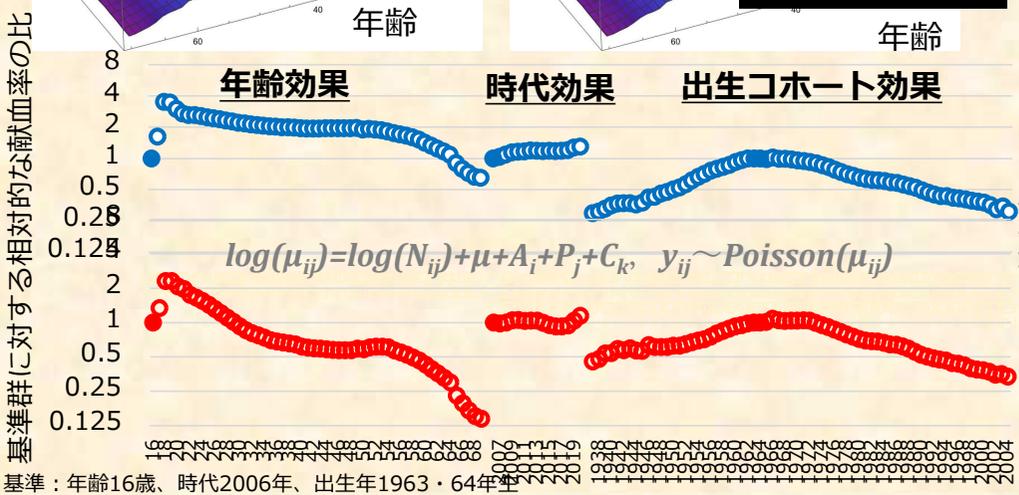
参考※R2年度研究班研究では4,774,211～5,049,327(2025年)

【供給】献血者数の予測

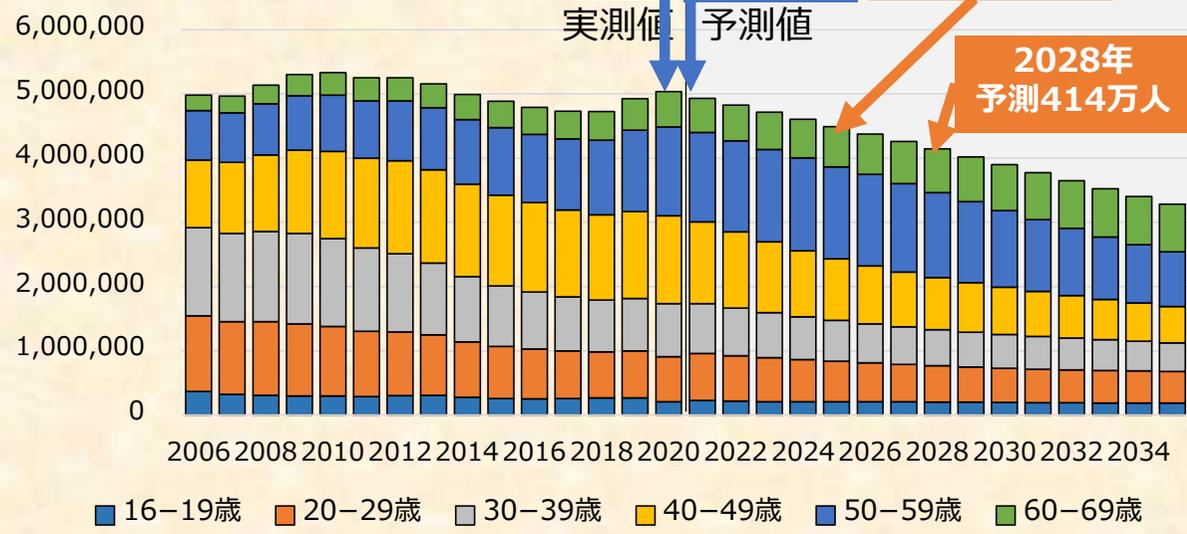
実献血率とAPCモデルによる再現献血率



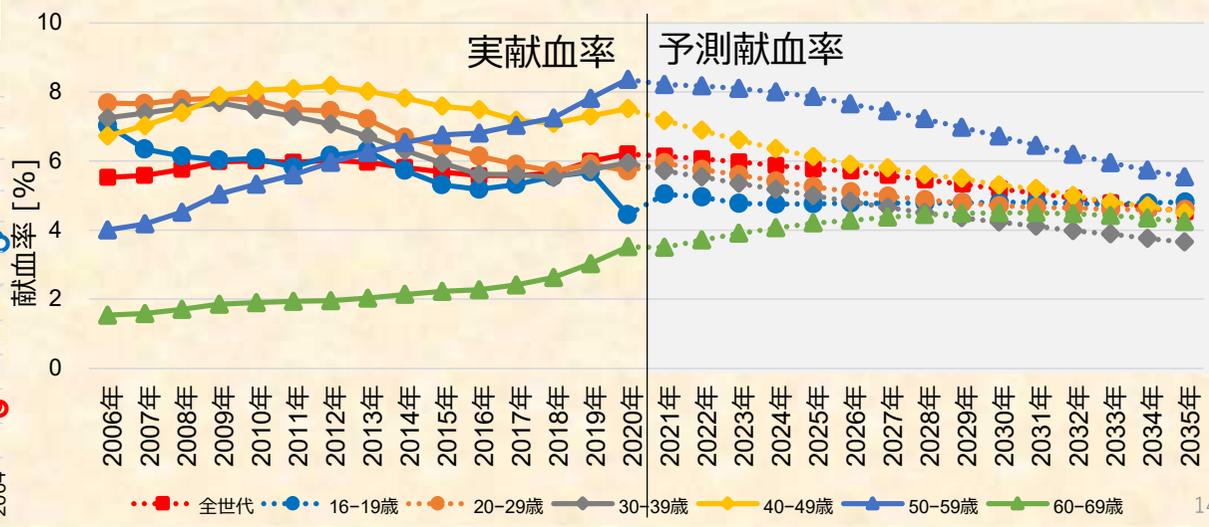
献血率についてのAPCモデルの再現性が高いことが示された



献血者数の推移



年齢階級別献血率の推移



【目標値】2025年・2028年献血率目標値の算出

献血不足分の算出

需要 推計 結果	全血献血		成分献血				合計（人）			APCモデル による供給 推計	献血不足分（人）		
	200ML 献血 （人）	400ML 献血 （人）	血小板献 血（人）	血漿献血（人）									
				血漿製剤 製品用	原料血漿用 国内製剤予測～自給率補正予測								
2021	123,449	3,201,539	858,460	192,065	855,158	～	984,258	5,230,671	～	5,359,771	4,933,275	297,396～	426,496
2022	122,699	3,182,085	853,696	190,097	881,129	～	1,014,150	5,229,706	～	5,362,727	4,824,423	405,283～	538,304
2023	121,712	3,156,484	847,277	187,777	868,252	～	999,329	5,181,502	～	5,312,579	4,713,860	467,642～	598,719
2024	120,457	3,123,946	838,988	185,062	839,958	～	966,763	5,108,411	～	5,235,216	4,603,091	505,320～	632,125
2025	119,084	3,088,331	829,862	182,185	797,636	～	918,052	5,017,098	～	5,137,514	4,490,461	526,637～	647,053
2026	117,530	3,048,034	819,469	179,054	755,080	～	869,072	4,919,167	～	5,033,159	4,376,824	542,343～	656,335
2027	115,769	3,002,376	807,622	175,632	726,780	～	836,499	4,828,179	～	4,937,898	4,261,056	567,123～	676,842
2028	114,027	2,957,194	795,890	172,263	697,950	～	803,317	4,737,324	～	4,842,691	4,141,817	595,507～	700,874

2025年・2028年献血率目標値の算出

		予測献血者数と献血率 （APCモデル【供給】）		不足分を若年層に案分		目標献血者数と献血率						
2025年	16-19歳	204,923	4.7%	73,345	～	90,115	278,268	～	295,038	6.4%	～	6.7%
	20-29歳	631,472	5.1%	226,013	～	277,691	857,485	～	909,163	6.9%	～	7.3%
	30-39歳	635,009	4.8%	227,279	～	279,247	862,288	～	914,256	6.6%	～	7.0%
2028年	16-19歳	200,960	4.7%	90,150	～	106,100	291,110	～	307,060	6.8%	～	7.2%
	20-29歳	566,672	4.7%	254,206	～	299,184	820,878	～	865,856	6.7%	～	7.1%
	30-39歳	559,863	4.3%	251,151	～	295,589	811,014	～	855,452	6.3%	～	6.6%

令和2~5年度 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業
 新たなアプローチ方法による献血推進方策と血液製剤の需要予測に資する研究（田中班）

平成30年度～令和2年度（30200501）

令和3年度～令和5年度（21KC1005）

【全需要予測】

必要献血者数：2025年 477~505万人

2025年 502~514万人
 2028年 474~484万人

【免疫グロブリン需要予測】

男女・年齢別の処方状況をもとにした将来予測
 （「患者1人あたりの処方本数」と「人口1人
 当たりの処方患者数」の2種類の線形モデル）

2012-2018年 NDB Data

処方本数：2025年 189万本
 （国内製剤）

2012-2021年 NDB Data

2025年 184万本
 2028年 170万本

【原料血漿（分画製剤）需要予測】

原料血漿必要量：2025年 94.3万L

2025年 107.4~123.4万L
 2028年 99.7~115.1万L

【輸血用血液製剤（赤血球、血小板、
 血漿）需要予測】

年齢別の処方状況をもとにした将来予測
 （一般化線形モデル）

2010-2018年 日赤事業報告 Data
 & 東京都輸血状況調査 Data

赤血球製剤：2025年 627万単位
 血小板製剤：2025年 901万単位
 血漿製剤：2025年 25.8万L

2010-2020年 日赤事業報告 Data
 & 東京都輸血状況調査 Data

2025年 620万単位 2028年594万単位
 2025年 870万単位 2028年834万単位
 2025年 24.7万L 2028年 23.3万L

【全供給予測】

2006-2018年 日赤献血者Data

献血者数：2025年 440~444万人

2006-2020年 日赤献血者Data

2025年 449万人
 2028年 414万人

H30-R2年度研究：Markov/Age-Cohortモデルによる予測
 R3-R5年度研究：Age-Period-Cohortモデルによる予測
 （コロナ禍影響を考慮するため）

【献血者不足】

献血者数不足分：2025年 33~65万人

2025年 52~65万人
 2028年 60~70万人

「献血推進2025」 献血率目標値の検証と2028年献血率目標値案

		2025年目標値 (制定時)			2025目標値 (検証)	2028年目標値
		献血推進 2025	日赤 R元予測 (ネガティブ予測 -ポジティブ予測)	田中班 H30~R2 研究	田中班 R3~R5研究	田中班 R3~R5研究
若年層(39歳以下)で不足分を捕捉する場合	16-39歳	6.7%	未	未	6.7-7.1%	6.5-6.9%
	16-19歳	6.6%	6.4- 6.6%	6.5-7.5%	6.4-6.7%	6.8-7.2%
	20-29歳	6.8%	6.5- 6.8%	6.9-8.1%	6.9-7.3%	6.7-7.1%
	30-39歳	6.6%	6.3- 6.6%	6.1-7.3%	6.6-7.0%	6.3-6.6%
全年齢で不足分を捕捉する場合 (参考)	16-39歳			未	5.5-5.6%	5.2-5.3%
	16-19歳			5.7-6.2%	5.2-5.4%	5.4-5.5%
	20-29歳			6.0-6.7%	5.7-5.8%	5.3-5.4%
	30-39歳			5.3-6.0%	5.4-5.5%	4.9-5.1%

- ◆ 今回、若年層の2025年度献血率目標値を算出すると**6.7-7.1%**となり、「献血推進2025」(**6.7%**)の修正は不要と考えられた。
- ◆ 一方、2028年度目標値について同様に算出すると**6.5-6.9%**となり、「献血推進2025」目標値とほぼ同じ値になると考えられた。

※2025目標値の検証と2028目標値の算出において、日本の将来推計人口(令和5年推計)を使用

まとめ

- ◆ 今回、コロナ禍の時期を含むデータを用いて、「献血推進2025」で掲げられた2025年の16-39歳献血率目標値を、再度算出したところ

16-39歳目標献血率：6.7-7.1%（献血推進2025目標値：6.7%）

16-19歳：6.4-6.7%（献血推進2025：6.6%）

20-29歳：6.9-7.3%（同：6.8%）

30-39歳：6.6-7.0%（同：6.6%） となった。

コロナ禍中に、様々な取り組みにより40歳以上の献血者数が増加したが、需要と供給の差による献血者の不足分がR2予測値より増加した。その結果、不足分を若年層で補うとした場合の目標献血率はやや高めに算出されたが、**献血推進2025の目標献血率の修正は不要**と考えられた。

- ◆ 同様の算出を行い、2028年献血率目標値を算出した：

16-39歳目標献血率：6.5-6.9%

16-19歳：6.8-7.2%

20-29歳：6.7-7.1%

30-39歳：6.3-6.6%

献血率目標値には、コロナ禍の影響が示唆され、2022年以後のデータを元に再度目標値を算出することが必要と考えられた。